

No.317



一般社団法人

青森県理学療法士会ニュース

## 平成23年度 全国都道府県理学療法士会会長会議報告

県士会長 伊藤 和夫

日時 平成23年10月5日 13:00～17:30 (13:00～ 秋期役員講習会)  
 場所 甲府富士屋ホテル2階 (山梨県甲府市)  
 議事 1) 災害対策本部関係  
 2) 学術局 3) 教育局 4) 社会局 5) 事務局 6) 職能局 各関係

## 報告

会議に先立ち、秋期役員講習会が開催されました。講師は内閣官房社会保障対策室長のN氏(2002年当時の厚労省老健局長)、テーマは「これからの医療・介護の供給体制について」です。スライド資料をもとに約1時間講演されました。現在の社会保障給付費は対GDP比で22.3%、一般会計を上回り、全省庁中最大、少産少死・高齢化にて後期高齢者の増大と死亡数の拡大による2055年までの人口変化、長寿化・少死、少子化の中での、いわゆる『社会保障・税一体改革』スケジュール(HP参照とのこと)を述べられました。厳しい財政状況のもと、予算財源がない中で2012年の改定は先送り、見送りかと、また訪問リハで早く医療界のコンセンサスと得て欲しいと述べていました。

会議は各都道府県士会長47名中46名の出席のもと、議長は梅本氏(次期全研開催地の鹿児島県士会長)と吉井理事を選出しました。第46回全研大会長小林氏が、中屋前会長よりのご指導で10年前から準備してきたと挨拶しました。半田会長からは「今回の士会長会議は新定款での新しい試み、震災支援はつつがなく終了、公益社団登記は来年4月1日予定、士会活動と協力共同、介護診療報酬改定は今が山場、訪問リハはかなり厳しい、IT化実施、今後1年間でたたき台作り、平成25年からは新しい組織作りを」と挨拶がありました。

議事は各部局ごとに報告と質疑を行いました。災害対策本部からは、岩手・宮城の支援報告と関係予算の執行状況(残400万円の計画検討も)、さらに今後の災害規定、対応の仕方についての検討必要などが出されました。

学術局では、学術大会部、専門領域研究部、学術誌部の経過報告と「全国学術大会・全国学術研修大会のあり方に関する最終答申書(H22.10.31付)」について意見交換され、これは決定ではないこと、ブロックとの関係や専門領域研究会の再編成などが出されました。

教育局では、教育部、研修部、生涯学習部の経過報告と「新人教育システム変更案」の説明がなされました。新人教育履修率向上を図る、IT化導入しつつも「手帳」は当面継続も検討し運用面での向上、士会の負担軽減する旨が報告されました。

社会局では、公益事業推進部の障害者団体への助成事業、広報部のPT週間事業、調査部での「医療・介護保険改訂に関する実態調査」依頼(2012年6月実施予定)などが報告され、また広報戦略特別委員会への意見交換がなされました。

事務局では、事務局でのIT化、組織部の組織図検討、福利厚生部のクラブオフ会員制度、ニュース編集部のFAX通信などが報告され、IT化推進特別委員会からは費用の一覧と会員制サイト構築進行状況が報告されました。特に「包括的会員管理システム」説明会が12月に予定されています。

職能局では、要望書提出については半田会長が報告、医療保険部・介護保険部・業務推進部を通じて「管理者ネットワーク構築事業」として提案型管理者研修会(2012年2月予定)の案内がありました。

最後に半田会長より、山口議員の後援会作りの訴えがあり、同議員の挨拶と秘書からの提起がありました。以上、簡単ですが士会長会議の概要報告といたします。

## ＜第4回理事会議事録＞

日時：平成23年9月17日（土）15：00～17：30

場所：あおもり協立病院 会議室

出席者：伊藤和夫，川口徹，小村博，中村正直，山谷光仁，古木名寿登，村上三四郎

安田友久，二本柳洋，川原田里美，後藤明教，三浦時男，山田伸

尾田敦，須藤真史，對馬浩志，外崎和朋，氣仙裕，長瀬明弘，遊馬悦子

書記：伊藤真由美

案件：

### I. 報告事項

#### 1. 第1回三役会報告（詳細は士会ニュース No.316 に掲載済み）

##### ・事務局の設置

現在は士会員の所属する施設に置いているが，事務所を借りて設置する事を検討中。

最近，士会事務局からの連絡が滞っているようなので早急に対応する。

##### ・会費納入に関しては，カード変更などで混乱しているようなので対応を図る。

##### ・理事会時の議事審議フォーマットを今回から使用していく。

#### 2. 第1回支部長・事務局長会議報告

##### ・平成23年9月17日14：00～14：50，理事会前に開催された。

##### ・県内6支部の平成22年度事業，決算報告報告，平成23年度の事業計画，予算について報告。

各支部において，総会，新入会員歓迎会，研修会，親睦会等が開催されている。

予算も適正に管理され，執行されていた。

### II. 協議事項

#### 1. 災害対策支援について

##### ・災害支援ボランティアの募集結果，18名の士会員からの協力が得られた。10月31日より，岩手県下閉伊郡山田町に順次支援活動に入る予定。

##### ・実際に現地へ赴くのは9名の会員の予定であり，賠償責任保険加入手当を支給すると共に，派遣前に説明会を開催する。

##### ・現地移動の際は，ポータブルナビが必需品となるようなので準備をする。

#### 2. 各部局より

##### 1)事務局

##### ・会員異動（平成23年6月12日～9月11日）について

県内異動 2名，転入 5名，転出 2名，復会 1名，退会 1名，改姓 2名

施設部書名変更 1件

##### 2)職能局

##### ・平成23年9月10日 第3回施設管理者懇談会開催

会場 メディカルコート八戸西病院会議室

内容 診療報酬関連や新人教育をふまえ臨床実習について

##### 3)広報局

##### ・平成23年7月9日～10日 弘前市「市民の健康祭り」協力

##### ・平成23年8月4日 青森市ふくしねふた参加

##### ・平成23年8月21日 おいらせ町健康祭り協力

##### ・ロゴ入りボールペン，マーカーを作製したので，啓蒙活動に利用して下さい。

##### 4)学術局

##### ・学会運営規定を見直し，修正案を作成したので，検討する。

##### ・第36回県士会学会のランチョンセミナーに関しては，ランチョンセミナーの趣旨が違っているため学会でランチを出すのは却下する。講演は何も問題が無い。

##### ・市民公開講座は演題発表が終わった最後にすべきとの意見でまとまった。

## 5)教育局

### ・特別教習会開催報告

テーマ1「腰痛症に対する理学療法評価と治療ーそのポイントとコツー」

講師：青木 一治 氏 (名古屋学院大学)

期 日：平成 23 年 6 月 4 日～ 5 日

会 場：東北メディカル学院 参加者：35 名

テーマ2「介護保険の今後の動向と訪問リハビリにおける現状の制度と臨床」

講師：張本 浩平 氏 (合同会社 gene 代表)

期 日：平成 23 年 7 月 24 日

会 場：弘前大学大学院保健学研究科 参加者：34 名

### ・新人教育プログラム研修会

9 月 23 日 (土) 3 テーマで弘前大学大学院を会場に開催予定

12 月 3 日 (土) 3 テーマで県立保健大学を会場に開催予定

## 6)社会局

・11 月 6 日 (日) 車椅子スポーツイベントを県立保健大学を会場に開催予定

予算としては、10 万円を見込んでいる。

・訪問リハ研修会に関しては、5 万円の予算を活用し受益者負担を合わせ開催する。

## 7)組織検討委員会

・10 月 6 日までに各支部より委員を推薦して頂き、その後委員会を開催する予定。

## III. その他

1. 次回理事会は、11 月 26 日 (土) に開催予定。

# 三沢国際車椅子テニス大会ボランティアトレーナー活動報告

## メディカルコート八戸西病院 越後 譲

今回、理学療法士となる目標を達成した今、自分にできる事を考え思い立ってトレーナー活動にチャレンジしました。また、現場で実際に関わることが、人との交流とともに障害に対する相互理解を感じ取ることができ、良い経験を積める機会だと思って参加しました。その中で私がコート上で見たものは、縦横無尽に走り、キラキラした表情で躍動している姿でした。また、各々の選手のスポーツを行う目的、価値観、考え方に相違はあるものの、スポーツは多くの選手に対してポジティブな影響を及ぼし、前向きでより積極的な生活を実現可能にしていました。

大会開催に先立ち、本大会は多くの高校生ボランティア活動の下で進行され、試合はセルフジャッジにて行われています。その中で、私がコート上で見た発見は、誰一人として嫌な顔をせず活動し、皆一緒になって一つのことを共有している。そして、大会運営に関わる沢山の人間、そのすべての人間が同じ方向を向いて障害と闘っているような印象を感じ取りました。

本大会の参加者のほとんどは、障害を自分の個性の一部として受け入れている方達であり、私はその中で笑顔が素敵な一人のアスリートに惹かれ、経験談や人生論を問いました。

「現実と向き合うことが難しく、自分自身の中にブレーキを踏み続ける壁があり、機能しない身体を抱え、今の自分に不満を感じているのに何もしない、そんな自分が嫌いだった。テニスを始めたきっかけは、可能性に挑戦するかしないかの違いに気付いた時だった」と語ってくれました。臨床経験も少なく紙面上でしか、障害を持つ人の生活予後と考えた事が無かった私にとって、この言葉は心に響きました。生活の中にスポーツを組み込み、目標に向かって日々努力する。辛くても続ける練習に選手としての成長を感じ、可能性を活かしている喜びがあるため、現在の前向きな姿勢と笑顔があるのだと感じました。スポーツは、楽しみ・健康・生き甲斐、競技性が非常に高く激しい競争を伴うようなものまで幅広く存在します。その中で、障害者スポーツの良い所は、障害の程度に応じてクラス分けがあり、そのクラスの中で競争するところにあります。また、勝敗以外の要素である成長と感動にも重要な価値があり、各々が自己責任の下、主体性を持ち、生き甲斐を感じながら自立した生活を

送るための一助になるのではないかと考えます。

普通の業務内容とは異なるスポーツトレーナー業務を通じ、先輩理学療法士と交流を深め知識が増えるとともに、障害を受容した方とふれあい、自分の肌で障害受容について感じ取ることが出来ました。また、今回の経験が臨床現場で接する、障害を受容する前の対象者への還元につながるのではないかと考えます。障害者スポーツはまぎれもなくリハ医学とスポーツ医学の一角であり、学ぶことが大変多く、スポーツそのものを楽しむことが、無意識下で障害受容の確立を促し、自立した生活を遂行可能とする一つの手段ではないかと考えます。一般病院から退院し、社会生活へ一歩足を踏み入れる段階の架け橋的存在である医療従事者から情報提供ができるよう、今後、障害者スポーツの存在をアピールすると共に、スポーツの素晴らしさを自分が発信できるよう関わって行きたいと考えます。

## おいらせ町健康まつり印象記

国保おいらせ病院 板井 英樹

今年も恒例のおいらせ町健康まつりが8月21日（日）に町内にある福祉センター内“いきいき館”にて開催され、当院PT3名と学生ボランティア2名の合計5名のスタッフで運営したりハビリコーナーは盛況でした。

一般市民への健康づくりのお手伝いとして、“啓発”と“支援”を意識しながら取り組みました。運動機能検査として1) 握力測定, 2) 開眼片脚立ち, 3) 最大歩幅, 4) 40cm 踏み台昇降, 5) 長座体前屈, 6) 重心動揺計（静的閉脚立位, 開眼/閉眼）, を例年通り実施しました。各検査の結果を元に、運動の助言をするにあたって、左右差やそれぞれ各検査の年代別との差を参考に助言することが有効的で、整形疾患・痛み等の来場者の心当たりにも適合することが多い印象がありました。また、手指・足趾の変形や姿勢観察をすることでストレッチを含めたセルフトレーニングの具体的な助言が出来ました。

一昨年、昨年、今年と来場者の運動機能検査者数も66人（平均年齢；56.3歳）、70人（55.4歳）、78人（57.9歳）と天候やマンパワーの違い等の影響もあるかと思われませんが、実施する作業内容の見直しを実施することで、作業効率が良くなったことを実感しました。また、待ち時間が長いことを知りながら来場者が待機して下さったことも、10年以上健康まつりに携わらせて頂いていますが、健康に対する意識が年々高くなっていることを窺わせました。

BMI（体格指数）が24以上の方が例年検査者全体の36%程度でしたが、43%と増していたので、その点も関心を持つように助言出来たことが良かったです。

検査体験者には、外交局長の小村先生が用意してくれた士会のネーム入りのペンと士会の費用で購入したセラバンドを粗品としてプレゼントし、喜ばれました。

中学生と来場した母親が、ペンを見て「あんだ、理学療法士っていう職業もあるよ！！」というように帰りの際の通路で会話されていたことや、骨折後リハビリの経験がある豊唾者の方で、筋スパズムで上肢挙上出来ない状況でしたが、セルフストレッチ、浮腫のある関節付近のマッサージを指導したことで、自動運動の即時的改善が得られ嬉しそうにされていたのが、印象に残りました。

健康まつり撤収後は恒例の反省会も実施し、更に改善点が挙げられたので、来年も作業効率の向上が得られるものと感じています。

休憩時間が殆ど取れなかったことのお詫びも含め、協力してくださった学生さんにはこの場を借りて感謝申し上げます。

# 青森県理学療法士会上十三支部・ 青森県作業療法士会八戸ブロック合同研修会印象記

十和田市立中央病院 晴山 隼

平成 23 年 8 月 28 日に十和田中央病院にて、青森県理学療法士会上十三支部と青森県作業療法士会八戸ブロック合同の研修会に参加させて頂きました。今回は、栃内第二病院の佐藤博志先生による、「脳卒中後遺症患者へのマネージメント」という題目で講義をして頂きました。内容はまず、脳卒中について講義を行いその後、実際に患者様に来て頂き治療するという流れで行われました。

講義では、患者様の能力を引き出すには、時間を要する事と環境設定をする事の重要性を学びました。脳卒中の方について、ある程度理解していたつもりでしたが、決められた 1 単位 20 分という枠に患者様をはめ込み、患者様の良い反応・適切な環境設定が出来ていない状態で、知らず知らずのうちに患者様のペースではなく、自分のペースで治療をしていた事に気づかされました。

後半の実技では、実際に患者様にお越し頂き、まず、歩行などの動作をしてもらい、その後に座位や臥位にて不良姿勢の原因となる筋緊張が亢進した部位を抑制し、身体の状態を整えリラックスした状態にし、また治療前と同じ動作を行い治療前後の動作の変化を観察しました。治療前後では、治療前につまづきが顕著にみられた麻痺側下肢の振り出しが円滑になり、劇的な歩容の改善が認められました。動作訓練をする前に身体の筋緊張をコントロールすることの重要性と普段、筋緊張の不均衡により患者様が十分な休息を得る事が出来ていない事を実際に佐藤先生の治療を見学して実感しました。

あともう一つ、先生が患者様の治療をしていた時に患者様のお話にしっかりと耳を傾け、傾聴している場面がとても印象的でした。患者様の側に立ちその患者様の疾患だけではなくその人の事を理解する事も大切な事などではないかと感じました。

今回の勉強会を通して、様々な事を学びました。今回のような勉強会に来て講義して下さいった佐藤博志先生をはじめ、勉強会を開いて下さった青森県理学療法士会上十三支部と青森県作業療法士会八戸ブロックのスタッフの皆さんにはとても感謝しています。ありがとうございました。

## 公立七戸病院 伊藤 亮太

今回、平成 23 年 8 月 28 日に十和田市立中央病院で行われた研修会に参加しました。『脳卒中後遺症患者へのマネージメント』というテーマで栃内第二病院の佐藤博志先生に講義していただきました。今回の研修会は理学療法士会の上十三支部と作業療法士会の八戸ブロックの共催による研修会で、多数の先生方が参加されていました。

3 時間という短時間の講義でしたが、内容の濃いスライドやデモンストレーションがあり、非常に多くのことを感じ、また自分の臨床について考えさせられることが多かったです。特に印象に残ったのは、麻痺の患者さんは背臥位でも安定できないことが多く、リラックスしやすい環境をつくるかどうかが患者さんのパフォーマンスに大きな差が生じるということです。実際に患者さんにお越し頂いて、その介入前後を比較すると明らかでした。患者さんの臨床像をとらえ、快適な姿勢を選択することの大切さを学びました。今回の研修会は、まだまだ知識も技術もない私にとって、とても有意義な研修になりました。今後、更に知識を深めながら日々の業務の中で活かしていければと思います。

最後に、講義をして下さった佐藤博志先生、協力して下さいった患者さん、研修会を行うにあたり会場準備等配慮して下さいった諸先生方に心から感謝申し上げます。



## 支部活動報告

### ＝青森支部＝

#### ＜平成23年度 青森支部第2回研修会・臨時総会・忘年会のお知らせ＞

青森支部長 山田 伸

このたび平成**23**年度青森県理学療法士会青森支部第**2**回研修会ならびに臨時総会を下記の通り開催することとなりました。また、併せて忘年会を開催することとなりました。新入会員の皆様はもちろんのこと、病院・施設間の情報交換や、交流を深める絶好の機会ですので、多数のご参加をご期待申し上げます。

症例検討会演題募集は**11月18日**締切となっております。また、臨時総会・忘年会の参加・不参加につきましては、準備の都合上、ご面倒でもメール・FAXにて**11月30日**までご連絡くださいますようお願いいたします。

記

#### ＜平成23年度第2回青森支部研修会＞

日時：平成**23**年**12月10日**（土）**14：00～17：20**終了予定（受付開始**13：30～**）

会場：協立クリニック**4F**会議室（あおもり協立病院となりの診療所です）

※会場への出入りの都合上、あおもり協立病院駐車場をご利用下さい。

内容：症例検討会

参加費：無料

演題応募締切日：**11月18日**（金）

申込方法：メールの件名は必ず「平成**23**年青森支部演題応募」とし、メール本文には演題名（可能ならばサブタイトルも）、発表者の氏名及び所属を明記して下さい。抄録は不要です。こちらで確認後、受付済みの返信をします。応募後**3日**経過しても受付確認した旨の返信が届かない場合は、電話で下記にお問い合わせ下さい。

申込先：あおもり協立病院リハビリテーション科 工藤寛教（クドウヒロノリ）

TEL 017-762-5500 E-mail ambasasuke@yahoo.co.jp

#### ＜臨時総会・忘年会＞

○臨時総会（研修会終了後開催）

臨時総会議案 ①平成**24**年度事業計画素案 ②その他（報告事項等）

○忘年会（**18：30～**）

場所：レストラン **Tera**（市役所前デイリーストアの裏側、本町公園向かい）

青森市本町**1-2-13** TEL：**017-762-7752**

会費：**3,000**円

※臨時総会・忘年会出欠締切日：**11月30日**（水）

申込先：じけいかい訪問看護ステーション 米田 良平

FAX 017-783-2110 E-mail asamusi-yoneta@kzc.biglobe.ne.jp

## ＝津軽支部＝

### <平成23年度特別講習会「徒手理学療法の実践inひろさき」報告>

弘前大学大学院保健学研究科 藤田 俊文

平成 23 年 9 月 24・25 日に、弘前大学大学院保健学研究科において津軽支部特別研修会が開催されました。テーマは「徒手理学療法の実践 in ひろさき～骨盤帯・下肢～」ということで、埼玉県立大学の藤縄理先生を講師にお招きして実施しました。今回でシリーズ 3 回目となりましたが、昨年度は 2 月開催で今年度は 9 月開催と約半年が経過してからの講習会となりました。

今年度は、連休中での実施ではありましたが、参加者が 25 名と昨年よりも多く、前回・前々回から継続して参加されている方も 1/4 程度おりました。はじめに、基本的な理学療法過程の確認やクリニカルリーズニングの重要性を中心に講義して頂き、加えて講義の最後の方では、藤縄先生のフィールドであるスポーツ現場での実際の関わりについて、大変貴重な内容を講義していただきました。その後は、デモンストレーションを交えながら基本的な評価方法や触診技術、また治療技術など、丁寧に指導していただきました。さらに 1 日目の夜には、藤縄先生がもっとも重要視している「ナイトセミナー」を実施し、参加者の約半数の方に参加していただきました。研修会では聞けないような大変貴重な情報を得ることができ、また参加者同士の交流の深めることができましたと思います。

なお、研修会の開始時に津軽支部長の尾田先生より一言頂いた際に、「すでに来年度の予定も決まっている」とのコメントがあり、藤縄先生より次回も実施していただけることが講習会開始直前に決まったとの報告がありました。ちなみに次回のテーマは「肩甲帯・上肢」ということで、11 月初旬頃に実施予定です。来年度もたくさんのご参加をお待ちしております。



## ＝西北五支部＝

### <津軽・西北五支部合同症例検討会開催および演題募集のお知らせ>

平成 23 年度症例検討会を津軽・西北五支部合同で開催致します。昨年までは弘前市内で開催されていましたが、今回は五所川原市内で開催することになりました。

日時は 12 月 17 日（土）13：30～ 五所川原市民学習情報センターで計画しています。詳細は追って連絡致しますので、ご確認ください。

つきましては、演題を募集したいと思います。発表内容は症例報告に限らず、日ごろの業務に関する悩みなどをまとめて頂いてもかまいません。発表を希望される方は、下記①～⑤の必要事項を記入の上、メールにて 11 月 4 日までにお申し込みください。

- ①氏名(フリガナ), ②所属先, ③所属先の **TEL・E-mail**, ④経験年数(○年目),  
⑤仮タイトル(現時点のタイトルで結構です)

なお, 発表者は新人教育プログラム症例検討Ⅲの単位取得できます。奮ってご応募ください。  
ご不明な点は下記申込先までお問い合わせください。

【申込先】

誠仁会尾野病院 リハビリテーション科 幡野克仁  
TEL 0173-42-2133  
E-mail onorehapt@aomori-sejinkai.or.jp

【発表方法等について】

- ・発表申込をされた方は 11月25日までに, 1,200字程度の抄録を上記申込先までメールにてお送りください。
- ・発表時間は7分程度, 質疑応答は8分程度を予定しています(演題数により質疑応答時間は変更する場合があります)。
- ・発表は主催者側準備のパソコンによるプレゼンテーションのみとします。
- ・発表用の資料は **Windows** 版 **Microsoft PowerPoint 2007** で使用できるファイル形式で作成をお願いします。
- ・演者は, **USB** メモリに発表用資料を保存し, 当日の受付の際に担当者にお渡しください。
- ・当日はバックアップ用として, **USB** メモリ, もしくは **CD-R** にデータを保存してお持ちください。

＜平成23年度 第5回西北五支部特別研修会印象記＞

尾野病院 小野佑輔

平成 23 年 10 月 1 日, 立佞武多の館を会場に第 5 回西北五支部特別研修会が午後 3 時より開催されました。今回は日本大学文学部体育学科の小山貴之先生を講師に迎え, 「クリニカルリーズニング理論を用いた症例検討」と題して講演して頂きました。私は勉強不足の為, 今回の研修会で初めて「クリニカルリーズニング」という言葉を耳にし, 今までにない症例検討の考え方を勉強できるので, わくわくした気持ちで研修会の準備, そして本番に臨みました。いざ講演が始まり先生の講演に耳を傾けクリニカルリーズニングの考え方に触れていくうちに, 良い意味で期待を裏切られた気持ちとなりました。クリニカルリーズニングとは臨床推論と翻訳されます。私も臨床経験が 4 年目となり, 何度か症例検討という形でまとめたり, それを発表させて頂く機会がありました。今回の講演を聞いて, 今までなかったというよりも, 自分が行ってきた症例検討とは実はどういう事なのか, そしてそのまとめ方や思考過程, 文献検索の仕方まで, 様々な点で自分の考え方を整理することができました。また, これからも症例検討を積み重ねていく時に必ず役立つ内容であると感じました。

研修会後はもちろん情報交換会で西北五支部ならではの盛り上がりを見せていました。私は私用により最後まで居られなかった事が悔やまれております。今回遠くから来て頂いた小山先生, 講師を呼んで頂いた高橋先生ありがとうございました。また, 準備に当たった西北五支部の先生方, 当日参加された先生方お疲れ様でした。

＝下北支部＝  
＜下北支部 第5回研修会開催案内＞

下北支部長 氣仙 裕

青森県士会の皆様，日頃より大変お世話になっております。前回のニュースにも掲載いたしました  
が，下北支部の研修会を下記の通り開催いたしますので，ぜひご参加下さいますよう，宜しく  
申し上げます。

記

日 時：平成 23 年 11 月 20 日（日）10：00～14：30

場 所：下北文化会館 大会議室

テーマ：「下北における通所サービスでのリハビリの現状」

参加費：無料

日程・内容：

9：30～ 受付

10：00～ 平成 23 年度下北支部新人症例検討会  
座長：大間病院 仁木 勝 氏

12：30～ 受付

13：00～ 第 5 回下北支部研修会 開始  
むつリハビリテーション病院 岡田 晃 氏  
東通村季語老人保健施設のはなしょうぶ 四ッ谷 隆輔 氏  
介護老人保健施設シルバーケアセンターむつ 奥 久子 氏  
みちのく荘金谷デイサービスセンター 山田 有貴子 氏  
司会：むつ総合病院 濱谷 求 氏

14：30 閉会

【お問い合わせ・お申し込み先】

むつリハビリテーション病院 リハビリテーション科 岡田 晃

E-mail [pt@rihabiri-mutsu.jp](mailto:pt@rihabiri-mutsu.jp) TEL 0175-24-1211

申し込み締切 平成 23 年 11 月 11 日（金）

# 研修会のご案内

## 必須教育プログラム履修促進研修会2011のお知らせ

教育局長 村上 三四郎

生涯学習部では、昨年度より新人教育プログラム（以下、新プロ）を修了されていない会員歴 **11** 年目以降の方々を対象に履修促進研修会を各都道府県士会の理解を得て時限的に開催しています。今年度は **8** 会場のうち、すでに **2** 会場で開催を終えました。（新プロ未修了の **11** 年目以降の会員は、名称が必須教育プログラムに移行、新たに指定テーマを含む **6** テーマを受講、申請することで新プロ修了となります）

本研修会の目的は、本会入会後の **10** 年間に職場環境や結婚・出産・育児などの様々な理由で、新プロ未修了である管理者あるいは中堅クラスの会員各位が新プロを修了することで、現在の厳しい職場環境の変化に伴う研修時間・機会の制約のなか、急増する新人理学療法士を含む若い会員世代に対する新プロ履修啓発活動にも繋がり、職場あるいは協会全体にとっても質の向上において陽性効果になると考えております。

そのため、研修会講師は新プロ教本執筆者、協会理事で編成し、内容も **11** 年目以降の会員向けにお願いしており、リカレント教育として大変充実した内容になっています。小さいお子様のいる方には託児サービスも無料で準備しております（大分会場を除く）。対象となる多くの会員各位においては、集中研修形式で新プロ修了に必要な単位取得ができる本研修会にこの機会を活用して是非ともご参加いただけるようお願い致します。なお、今年度末で必須教育プログラムを打ち切りとするため、本研修会も今年度限りとなりますのでご注意ください。

### 【開催日程】

- 大分会場 平成 **23** 年 **11** 月 **12** 日（土）**13:00** ～ **13** 日（日）**14:00**  
別府リハビリテーションセンター（大分県別府市）
- 沖縄会場 平成 **24** 年 **1** 月 **14** 日（土）**13:00** ～ **15** 日（日）**13:00**  
沖縄リハビリテーション福祉専門学校（沖縄県那覇市）
- 徳島会場 平成 **24** 年 **2** 月 **18** 日（土）**13:00** ～ **19** 日（日）**14:00**  
あわぎんホール（徳島県徳島市）
- 神戸会場 平成 **24** 年 **3** 月 **10** 日（土）**13:00** ～ **11** 日（日）**13:00**  
神戸学院大学ポートアイランドキャンパス（兵庫県神戸市）

【対象者】日本理学療法士協会会員歴 **11** 年目以降で新人教育プログラム未修了の会員（休会期間は会員歴に含みません）。また、**1985** 年以前に入会の方は新プロ免除会員となりますので対象にはなりません。

【会費】**3,000** 円（原則、事前納付をお願いいたします）

【内容】以下の **6** テーマについて開催いたします（会場によって開催順序は異なります）

「職業倫理・管理運営」「生涯学習と理学療法の専門領域」「人間関係及び労働衛生」  
「理学療法の教育方法論」「社会の中の理学療法」「協会組織と生涯学習システム」

【申込方法】協会 HP ([http://www.japanpt.or.jp/07\\_society/02\\_index.html#05](http://www.japanpt.or.jp/07_society/02_index.html#05)) より詳細確認の上、お申し込みください

【問い合わせ先】日本理学療法協会事務局 [jpta@i.bekkoame.ne.jp](mailto:jpta@i.bekkoame.ne.jp)（メール連絡をお願いいたします）

## 平成23年度 青森県理学療法士会 新人教育プログラム研修会（冬）開催のご案内

生涯学習部長 成田 大一

下記日程にて、平成23年度冬の新人教育プログラム研修会を開催致します。  
ご周知の程をよろしくお願い致します。

記

日 時：平成23年12月3日（土）  
会 場：青森県立保健大学 教育研究 B 棟 1 階 B110  
（青森市大字浜館字間瀬 58-1）  
参加費：無料

タイムスケジュールおよび研修内容

【12月3日（土）】 受付 12:30～13:00

テーマ1 13:00～14:30

「人間関係および労働衛生」

講師 成田 大一（弘前大学大学院保健学研究科）

テーマ2 14:40～16:10

「理学療法の教育方法論」

講師 村上 三四郎（東北メディカル学院）

テーマ3 16:20～17:50

「生活環境支援」

講師 菊池 修一（東北メディカル学院）

※会場施設の駐車場をご利用いただけます。

ご質問等あれば下記までご連絡下さい。

弘前大学大学院保健学研究科 成田 大一

TEL & FAX 0172-39-5981

E-mail narihiro@cc.hirosaki-u.ac.jp

## 平成23年度 訪問リハビリテーション研究会 スキルアップ研修会

青森県訪問リハビリテーション研究会  
発起人代表 中村 正直

本年度青森県の訪問リハビリテーションに携わる理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の賛同者によって、『訪問リハビリテーション研究会』を設立いたしました。これとあわせて青森県内の訪問リハビリテーション技術の向上を図るため、研修教育活動の一環としてスキルアップ研修会を行うこととなりました。今回の研修では、他職種との連携と最近の訪問リハビリを取り巻く状況についての講義を中心に下記内容にて開催いたします。

なお、救急救命講習受講者には「救急救命基礎講習Ⅰ受講証明書」が発行されます。

また、PT協会として、新人教育プログラムの「理学療法トピックスⅠ」、「理学療法トピックスⅡ」、「理学療法トピックスⅢ」のいずれか1単位として認定されます。

研修会名：平成 23 年度訪問リハビリテーションスキルアップ研修会

日 時：平成 23 年 12 月 10 日（土）～ 12 月 11 日（日）

会 場：東北メディカル学院（青森県五戸町）

対 象：訪問リハビリテーション業務に従事している方または興味のある方

参加費：3,000 円（1 日のみ参加の場合は 2,000 円）

研修内容：

【講演】

「訪問リハのあり方 ―ものの考え方と経営―」 12 月 10 日 10：15～11：45

講師 川口 徹 氏（青森県立保健大学健康科学部 准教授）

「在宅で役立つ福祉用具と最新福祉用具事情（仮）」 12 月 10 日 12：50～14：20

講師 入江 寛 氏（株式会社 イリエ 専務取締役）

「在宅リハビリとの連携 ―在宅診療の立場から―」 12 月 10 日 14：30～16：00

講師 田中 美彦 氏（医療法人菁菜軒 田中医院 院長）

【普通救急救命講習 基礎講習 I】 12 月 11 日 9：00～12：10

講師 五戸町消防署職員

【パネルディスカッション】 12 月 11 日 13：00～15：10

「医療保険リハと介護保険リハとの連携について」

懇親会：12 月 10 日（土） 講習会終了後八戸市内を予定しております。

\*詳細は後日連絡いたします。

申込み方法および問い合わせ先：

必要事項を記入の上、メールまたは FAX にて申込をお願い致します。

申込のメールまたは FAX が届き次第、日程の詳細を返信させていただきます。

返信が届かない場合は、お手数ですが下記問合せ先にご連絡をお願い致します。

- ①研修会名（メールの場合は件名に記入してください）、②氏名（フリガナ）・性別、
- ③職種、④所属先（所属先の TEL・FAX・E-mail）、⑤経験年数（〇年目）、
- ⑥訪問リハ経験の有無、⑦情報交換会の出欠、⑧公文書必要の有無

申込先 財団法人 メディカルコート八戸西病院 在宅支援科 種市純子

TEL 0178-28-4000 FAX 0178-28-4137

E-mail houmon4000@sg-silver.or.jp

※申込締切は 11 月 30 日（水）とさせていただきます。

# 各部局通信

## 【事務局通信】

事務局長 後藤 明教

勤務先異動・改姓・自宅住所変更等により、会員登録に変更が生じた場合は、会員異動届（協会ホームページよりダウンロード可）に必要事項を記入の上、士会事務局まで送付して下さい。また、協会の機関誌が届いていない場合は、士会事務局へお問い合わせ下さい。

### 会員動向（平成23年6月12日～平成23年9月11日）

#### 県内異動会員（2名）

- 西本 綾乃 旧勤務先：介護老健しもだ  
新勤務先：介護老健ハートランド
- 増田 麗子 旧勤務先：自宅（青森支部）  
新勤務先：ひがし整形外科リハビリテーションクリニック

#### 転入会員（5名）

- 島守 勇気 旧勤務先：北海道士会  
新勤務先：八戸赤十字病院
- 三浦 秀幸 旧勤務先：宮城県士会  
新勤務先：自宅（津軽支部）
- 三浦 愛子 旧勤務先：宮城県士会  
新勤務先：さとの整形外科クリニック
- 大下 良栄 旧勤務先：岩手県士会  
新勤務先：自宅（八戸支部）
- 中澤 洋祐 旧勤務先：福島県士会  
新勤務先：国立病院機構弘前病院

#### 転出会員（2名）

- 河原 陽平 旧勤務先：健生病院  
新勤務先：台東区立台東病院（東京都士会）
- 木村磨衣子 旧勤務先：県立保健大学  
新勤務先：自宅（神奈川県士会）

#### 復会会員（1名）

- 柳沢 恵 勤務先：十和田第一病院

#### 退会会員（1名）

- 反町 悠也 旧勤務先：ときわ会病院

#### 改 姓（2名）

- 古川 舞子（旧姓 宮川）弘前脳卒中・リハビリテーションセンター  
林 紗矢香（旧姓 岡元）八戸赤十字病院

#### 施設部署名変更（1件）

- 独立行政法人国立病院機構弘前病院 理学療法室 → リハビリテーション科

（敬称略，順不同）

## 【教育局通信】

### 新人教育および生涯学習に関するお知らせ(第1報)

教育局長 村上 三四郎  
生涯学習部長 成田 大一

向寒の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、10月末より新人教育ならびに生涯学習の履修の個人管理、ならびに24年度から新人教育プログラムの新システムへの更新が行われます。まだ、未確定な部分もありますが、混乱を出来る限り回避するために、最低限わかっている部分から情報を配信していきたいと考えております。下記の情報をご参照いただき、今後の情報に注視していただければと思います。

#### 1. 新人教育ならびに生涯学習の履修の個人管理について

10月末より協会ホームページの中の個人ページの履修履歴の入力作業が始まります。入力方法や個人パスワードは後日協会より案内があります。

本士会としては、新プロ未履修の方で近々5年以内に一度でも新プロ研修会に参加し、生涯学習手帳を提出している会員は協会ですべてデータを入力していますので、履修状況を確認するだけになるかと思われまふ。しかし、それ以前に参加いただいた方、また既に修了、免除の方の学習履歴は個人入力になっています。2月末までに入力しないとデータとして残らない事になりますので、確実に入力頂くようお願い致します(おそらく、入力忘れの追加入力には対応予定がない状態です)。

#### 2. 新人教育プログラムの新システムへの更新について

24年4月に新人教育プログラムが新システムへ更新されます。これに伴い、必須教育プロ制度も24年3月をもって無くなります。23年3月までにリセットされた方の復活はできませんが、今後は11年目でのリセットも無くなり、新人と同じように必要な15単位を取得頂くこととなります(一部、免除もあります)。現在までに取得しているテーマは一部を除き読み替えられます。

※詳細は協会ニュース(もしくはニュース同封のおしらせ)を参照頂くとともに、最新の情報を士会ニュース・HPで発信出来るようにしたいと思います。

ご質問等あれば下記までメールにてご連絡下さい。対応可能な範囲でお応え致します。

弘前大学大学院保健学研究科 成田 大一  
E-mail narihiro@cc.hirosaki-u.ac.jp

### 新人教育プログラム終了者の認定手続きについて

新人教育プログラム履修管理部 菊池 修一

新人教育プログラムの所定単位を取得された士会員の方は、必要書類を同封の上、下記までご郵送下さい。本年度分をとりまとめ、日本理学療法士協会へ申請・終了証発行を依頼します。協会から終了証が届き次第、勤務先へ転送いたします。なお、終了証の送付は、新年度平成24年4月上旬から中旬となる予定です。そのため、勤務先の変更が予定されている場合は、新勤務先も明記下さい。

なお、新人教育プログラムでは3年間の18単位という規定です。18単位以上という条件の他、入会后3年経過も条件になります。

**本年度の申請可能な最短入会年度→平成 21 年度入会**

**【必要書類】**

1. 生涯学習手帳の 2～3 頁部分の複写（氏名・会員番号、入会年度などが記載ある頁）
2. 生涯学習手帳の新人教育プログラムページ該当部分の複写  
※但し、検印を受けてある部分のみ有効となります。  
※新人教育プログラム単位の履修開始年月日と履修終了年月日を別紙に記載していただくか、あるいは新人教育プログラムの開始と終了となったテーマ欄部分に○を記載して下さい。

**【平成 23 年度の受付期間】**

**受付開始**：随時 **受付締切**：平成 24 年 3 月 16 日（金曜日）必着

なお、期限を過ぎて到着の場合には、次年度に再申請して頂くことになります。

**【必須教育プログラムへ移行される方へお知らせ】**

平成 14 年度（2002 年度）入会の会員で新人教育プログラムを修了されていない会員は今回申請されないと平成 24 年度 4 月より必須教育プログラムへ移行することになります。

今まで取得した単位がリセットされ、新たにトピックス、症例検討を除くテーマより 6 単位を選んで取得して頂くことになります（生涯学習と理学療法の専門領域は必須）。

**【問い合わせ・送付先】**

教育局 履修管理部 菊池 修一

学校法人臨研学舎 東北メディカル学院 理学療法学科

〒 039-1522 青森県三戸郡五戸町字苗代沢 3 番地 638

TEL 0178-61-0606 FAX 0178-61-0034 E-mail shu-kikuchi@rinken.ac.jp

## 【財務部通信】

**★ 22 年度・23 年度会費未納者について★**

該当する方は、下記へ振り込みして下さい。

◇士会費 23,000 円の振込先（振込み手数料が発生します。）

みちのく銀行 本店営業部

店 番 014 口座番号 2615776

名 義 名 一般社団法人 青森県理学療法士会 代表理事 伊藤 和夫

名前を ATM にて入力して下さい。

**領収証の発行について**

協会事務局より発行可能です。引落後に発行しますので、必要な会員は協会事務局まで会員番号・氏名・金額を御連絡下さい。同施設の会員には、まとめて送付します。

日本理学療法士協会事務局 会費担当：西川 忍まで

協会ホームページ内 お問い合わせ [jpta@i.bekkoame.ne.jp](mailto:jpta@i.bekkoame.ne.jp) より依頼して下さい。

※不明な点は、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

**事務局財務担当理事** 佐井川 匠秀（同仁会浪打病院 リハビリテーション科）

E-mail [reha@namiuchi-hp.com](mailto:reha@namiuchi-hp.com)（リハ科全体アドレスのため本文中に宛名必要）

TEL 017-741-4341 FAX 017-743-3094

**財務担当** 佐藤 洋（国立病院機構弘前病院 リハビリテーション科）

E-mail [ptsato@hirosaki-lan.hosp.go.jp](mailto:ptsato@hirosaki-lan.hosp.go.jp)

TEL 0172-32-9968（直通）

## 【ニュース編集部通信】

### 原稿受付に関するお知らせ

◎原稿を依頼された方、もしくは掲載記事をお持ちの方は、下記の各支部担当者に E-mail, FAX のいずれかにて送付して下さい。各支部担当者の連絡先をお確かめの上、お問い合わせまたは原稿の送付をお願い致します。

なお、ご不明な点につきましては、編集部長または各支部担当者までお問い合わせ下さい。

次回の原稿締切日：平成23年12月12日（月曜日）

★ホームページにも情報が掲載されております★

青森県士会ホームページアドレス

<http://www.ptaomori.org/>

§ ニュース編集部支部担当者 §

●会員の皆様は、自分の支部のニュース編集部員をご確認の上、原稿をお送り下さい。

**青森支部：新山 典子（あおもり協立病院）**

〒030-0847 青森市東大野 2-1-10

TEL 017-762-5500 FAX 017-729-3260

E-mail kyouritupt@gmail.com

（リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要）

**八戸支部：糸坪 達也（総合リハビリ美保野）**

〒031-0833 八戸市大久保字大山 31-2

TEL 0178-25-0111 FAX 0178-25-0115

E-mail riha@mihono.jp

（リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要）

**津軽支部：神 亜季子（ときわ会病院）**

〒038-1216 南津軽郡藤崎町榑字亀田 2-1

TEL 0172-65-3771 FAX 0172-65-3773

E-mail h06gg403@yahoo.co.jp

**西北五支部：高橋 美保（五所川原市立西北中央病院）**

〒037-0053 五所川原市布屋町 41

TEL 0173-35-3111 FAX 0173-35-0009

E-mail rehapt@seihoku-hosp.com

（リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要）

**上十三支部：中里 隼也（十和田市立中央病院）**

〒034-0093 十和田市西 12 番町 14-8

TEL 0176-23-5121 FAX 0176-23-2999

E-mail rihabiri@hp-chuou-towada.towada.aomori.jp

（リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要）

**下北支部：川原田 雅志（むつ総合病院）**

〒039-4222 むつ市小川町 1-2-8

TEL 0175-22-2111 FAX 0175-22-4439

E-mail riha@hospital-mutsu.or.jp

（リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要）

**広報局ニュース編集部長：藤田 俊文（弘前大学大学院保健学研究科）**

〒036-8564 青森県弘前市本町 66-1 TEL 0172-39-5981（直通&FAX 兼用）

E-mail pttoshi@cc.hirosaki-u.ac.jp

編集委員：山田克彦（国立病院機構弘前病院），原田久美子（黒石病院）

對馬新吾（ときわ会病院），金子奈南夏（ときわ会病院）

中村学人（弘前脳卒中・リハビリテーションセンター）

古川舞子（弘前脳卒中・リハビリテーションセンター）

山田奈未子（弘前脳卒中・リハビリテーションセンター）

広報局ホームページ担当：山谷 光仁（十和田市立中央病院）

E-mail mitsuhiro@nifty.com

---

### 編集後記

皆さんが待ちに待った(?)食欲の秋になりましたね。毎週のように道の駅に美味しいものを求めてドライブしまくっています。魚も果物も美味しくて、すっかりエンゲル係数が上がっている對馬家です。

私事ですが、最近第2子が誕生しました。職場の協力を得て1ヶ月ほど午前中勤務だけにしてもらい、午後から家事・育児に積極的に関わってみました。妻の苦労を実感しながらも、この時期だけの子供の可愛さにニヤニヤしつつ(親バカ)、身も心も主夫気分で過ごしました。何より、妻の愚痴やため息が減ったのが一番の成果でした。對馬家の安定のために協力していただいた同僚の皆さんにこの場を借りて、お礼を言いたいと思います。どうもありがとうございました。

(文責：對馬)

---

### 奥 付

編集；青森県理学療法士会

発行；PT事務局 鱒ヶ沢町立中央病院リハビリテーション科内

〒038-2761 青森県西津軽郡鱒ヶ沢町舞戸町字浦生110-1

TEL・FAX 0173-72-5860

E-mail aomori-rigakukai@ptaomori.org